

## 第3回定例理事会

9月25日  
仙台ロイヤルパークホテル  
出席・理事24人、監事2人、特別参与1人

# 「日遊協が先頭に立って」 庄司会長「依存問題」で強調

冒頭、庄司孝輝会長は、秋の臨時国会で予想されるカジノ法案審議に触れ、「法案は10月中に出てくると思うが、関連して既に依存問題が相当に騒がれている。変な

数字も厚労省から出てきて、メディアが報じている。依存問題の取組みは、日遊協が依存問題PTを設置して動いていることから、事実上日遊協が中心になってやらざるを得ない。これからは注意喚起からもう一歩踏み出す必要があり、具体的な策を出していきたい」と述べた。



議長として議事を進める庄司孝輝会長▶

で、先行する日遊協の依存問題PTに他の団体からオブザーバー参加する形にし、同PTを活性化委員会の3つ目のWGとして審議を始めること、

当面は10月2日の同PTの会合をWGの初会合とすること、用語については日遊協全日遊連それぞれが主張する「依存問題」「のめり込み」の折衷案として「依存(のめり込み)問題」とすること等が報告された。

遊技産業活性化委員会の審議状況と、関連して依存問題に関する動きが報告された。活性化委員会は8月6日、9月8日に開かれ、2つのワーキンググループ(WG)として遊べる遊技機検討WG(仮称)、遊技産業PR・WG(仮称)のメンバーが決まった。遊べる遊技機検討WGは9月22日に初会合を開いた。

## 「依存PT」 中心に展開

並行して依存問題も喫緊の課題として協議することになり、9月8日の活性化委員会、6団体が対応策を持ち寄った。進め方とし

## 「合同説明会」 出展を承認

来年3月7日に有明・東京ビッ



理事会では依存問題など活発な議論が交わされた





グサイトで開かれる就活学生向けの「リクナビLIVE」(株)リクルート主催)に、「パチンコ産業合同説明会」のブースを出展する提案があり、承認された。合同説明会ブースの出展は4回目となる。「リクナビLIVE」は昨年まで年末に開催されていたが、採用活動時期の移行に合わせて今回は来年3月となった。

ブース出展の目的は、就職活動を始めたばかりの学生にパチンコ業界についての理解を促し、メーカー、ホール、販社、設備機器等に興味を持ってもらって、業界への応募者を増加させる。さらに、学生にパチンコ業界の正しい知識

と魅力を伝えイメージアップを図ることで、派生効果として若年層のユーザー開拓も視野に置く。

内容として、ブースでは会員企業から派遣された人事担当社員や若い社員が交代で講演する。さらに、新卒採用企業一覧のホームページやリクナビホームページのパチンコ業界特集ページなどを作成する。

## 横川浩氏が特別講演

理事会後、秋季セミナーが開かれ、一般社団法人日本商事仲裁協会理事長の横川浩氏が「裁判から仲裁へ」知っておきたい国際仲裁

制度」と題して講演した。同氏はビジネス紛争を解決する手段として、裁判所による訴訟ではなく、中立的な第三者(仲裁人)に委ねる仲裁・調停の仕組みをわかりやすく紹介し、特に仲裁の利点として迅速性、非公開性、専門性、国際的強制力を挙げた。セミナーには大西康弘全日遊連副理事長(青森県遊協理事長)ら他団体から役員・幹部12人が来賓として出席した。

新規入会を申請した正会員2社(ホール)、賛助会員2社の入会を承認した。これで9月25日現在、正会員336社(ホール111、機械68、販売109、景品10、その



「仲裁」について講演する横川浩氏

他38)、賛助会員76社、計412社と団体加盟1(同友会)となった。(15ページに新規入会会員)

## 来賓を招いて「懇親会」

セミナーの後、産業界の来賓の方々と懇親会を開いた。庄司会長の挨拶のあと来賓を代表して大西全日遊連副理事長が挨拶し、竹田隆東北遊技業協同組合連絡協議会会長が乾杯の音頭を取った。

最近の話題として産業界の活性化、依存対策、カジノ関連などなかなか中にも熱心に話し合う会となった。

秋季セミナー及び懇親会の大西、竹田氏以外の来賓は次の通り。

(順不同、敬称略)

- 橋高照忠(日電協常務理事)▽秋田光勇(自工会副理事長)▽古屋孝章(同友会事務局長)▽笠井聰夫(余暇進代表理事)▽田中弘(同事務局長)▽中島基之(PCSA専務理事)▽恵良道信(PSA専務理事)▽高橋一則(東北遊協理事長)▽佐々木斉(回胴遊商東北支部長)▽渡部修(同常務理事)